

大学生 北大通の花壇整備

釧路 故坂本さんの貯金活用

釧路駅前から幣舞橋まで続く釧路市北大通の花壇整備に若い世代も参画し、同時進行で北大通歩こう会のメンバーが案内役になって釧路の名所や公園などを巡り釧路の魅力を知る取り組みが5月28日に実現した。そうした若い世代を取り込む活動のきっかけになったのは、今年3月に享年92歳で亡くなった坂本陽子さんが生前に「私が貯めた5000円玉貯金を若い人のために使って…」という温かな気持ちでスタートだった。

故人となった坂本陽子さんは、生前にさまざまな活動をけん引した。釧路市動物園にキリンを贈るための



北大通の花壇整備に参加した釧路公立大学の学生たち

有志組織、チャイルズ・エソル・エルの先頭に立って多額の寄付金を募る活動に尽力し、南の島のミクロネシア

アの妊婦たちが母子手帳を持つていないことを現地に持って確認。以来12年間にわたって支援活動が続けた。さらにガールスカウト北海道第9団の活動を支援するなど、次代を担う子供たちの健全育成にも大きな功績を残した。

今回の坂本さんが残した「5000円玉貯金」の使い方と考えられたのは、釧路公立大学の学生たちに釧路をもっと知ってもらおうという企画だった。

第一弾はJR北海道の「釧路湿原ノロッコ号」に乗りこもらい、車窓から釧路湿原の魅力を知ってもらうことだった。このときの乗車券に「5000円玉貯金」が活用された。

第二弾の企画が今回の花壇整備と街並み散策。釧路公立大学の1年生13人が、2班に分かれてMOO、幣舞橋、出世坂、幣舞公園などを巡り、釧路の魅力を知った。引き続き、冬期間の

寒さで硬くなった土をスコップで掘り起こして、柔らかくした。この花壇に、きれいな花を植栽するための準備作業だ。この作業に取り組んだ学生たちの昼食の弁当代に「5000円玉貯金」が活用された。

釧路市出身だが、これまで北大通の花壇整備には関

わつていなかったという館山菜々美さん(19)は「今回はゼミの仲間と一緒に参加した。参加してみると、とても楽しかった。北大通についても関心を持てるようになった」と話していた。今後は学生たちに声掛けをして夏祭りへの参加や今後のまちづくりについて若

レイアウト・原田 浩一

い世代ならではの提言をもらう機会も検討中。北大通の活性化について、さまざまな意見交換をしてきた「大人世代」にとって、若い世代との距離感がかなり縮まってきたといえそうだ。

(伊東義晃)